



LIBRARIES

UNIVERSITY OF WISCONSIN-MADISON

Ehon Edo miyage = 繪本江戸土産. [v.2] [1850-1867]

Andō, Hiroshige, 1797-1858

[Tōkyō (東京)]: Kinkōdō (金幸堂), [1850-1867]

<https://digital.library.wisc.edu/1711.dl/KEUEMYXR4DRVW8L>

<http://rightsstatements.org/vocab/NoC-US/1.0/>

For information on re-use see:

<http://digital.library.wisc.edu/1711.dl/Copyright>

The libraries provide public access to a wide range of material, including online exhibits, digitized collections, archival finding aids, our catalog, online articles, and a growing range of materials in many media.

When possible, we provide rights information in catalog records, finding aids, and other metadata that accompanies collections or items. However, it is always the user's obligation to evaluate copyright and rights issues in light of their own use.

會本江戶土産南

何ふよふて あは 花運ぶ遊樂亭親の佳う
 境も まきり 今 いま 唐重なるの中れ うち ちり ちり のを おき 振お
 出 い へ い ぬ ぬ 人 ひと の の 眼 まなこ あり あり 又 また すす すす ぐ ぐ あり あり 江都 えと 古 ふる なる なる 遠 とほ
 玉代 たましろ 境 さかい の の 始 はじ め め なる なる 事 こと あり あり ぬ ぬ り り なる なる 事 こと あり あり

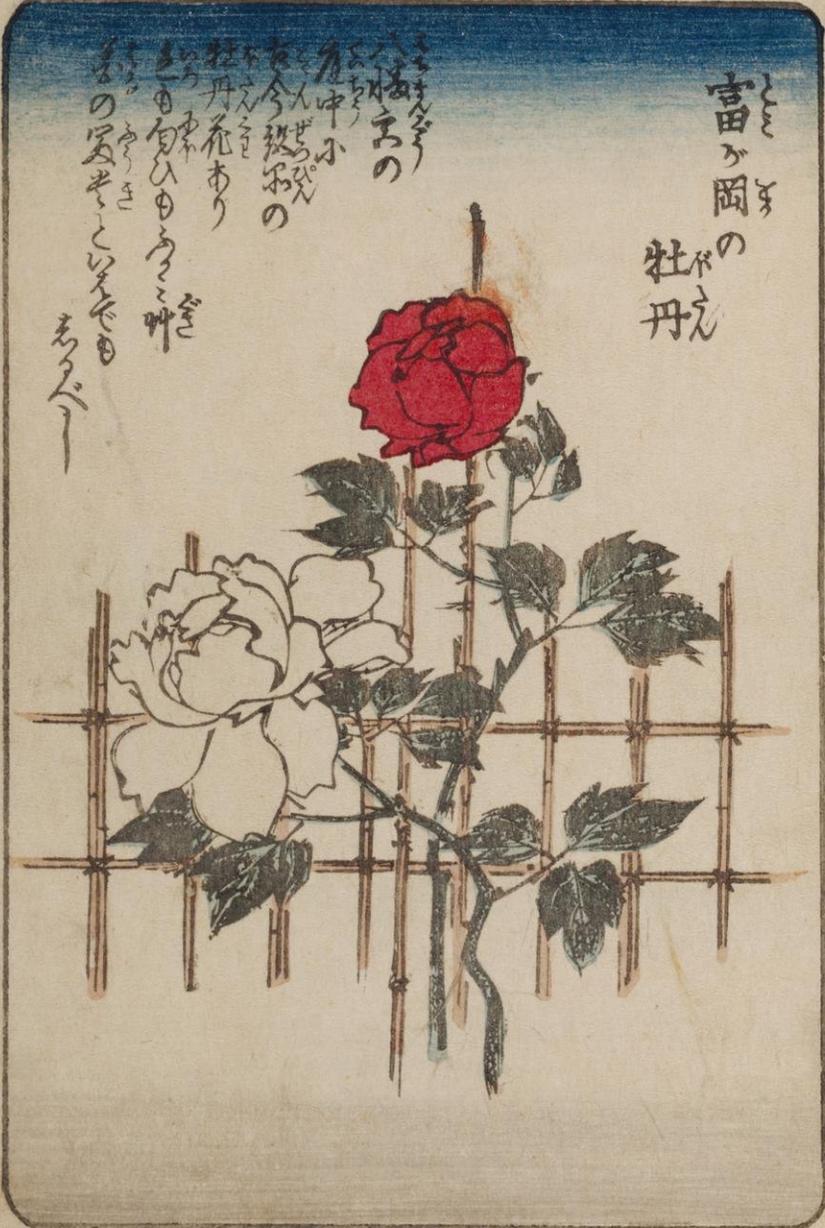
庚戌暮り

應永

松平深父誌



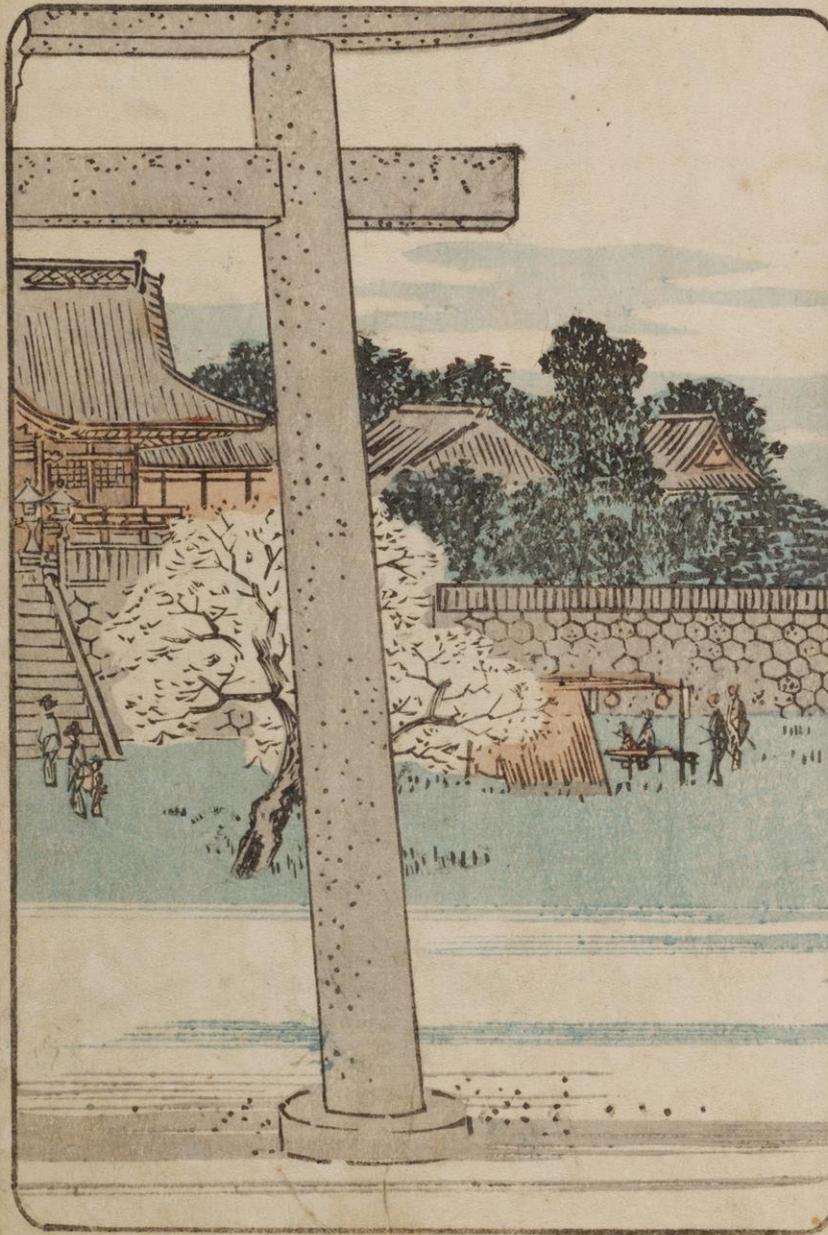
富岡の
牡丹



富岡の
牡丹の
花あり
 今 いま 彼 か の
 牡丹 ぼたん 花 はな あり
 花 はな の の 実 み ぞ ぞ こと こと あり あり

富田ヶ岡八幡宮

この宮居始めの村の
 陽原に依る八幡と唱ふ
 地ありしと云ふ所の
 長谷法師のこの所の
 示現ありてと云ふ
 うつれ深川の
 老徳ありて云ふ
 八月十五日
 旧時の釋素
 二のりあり



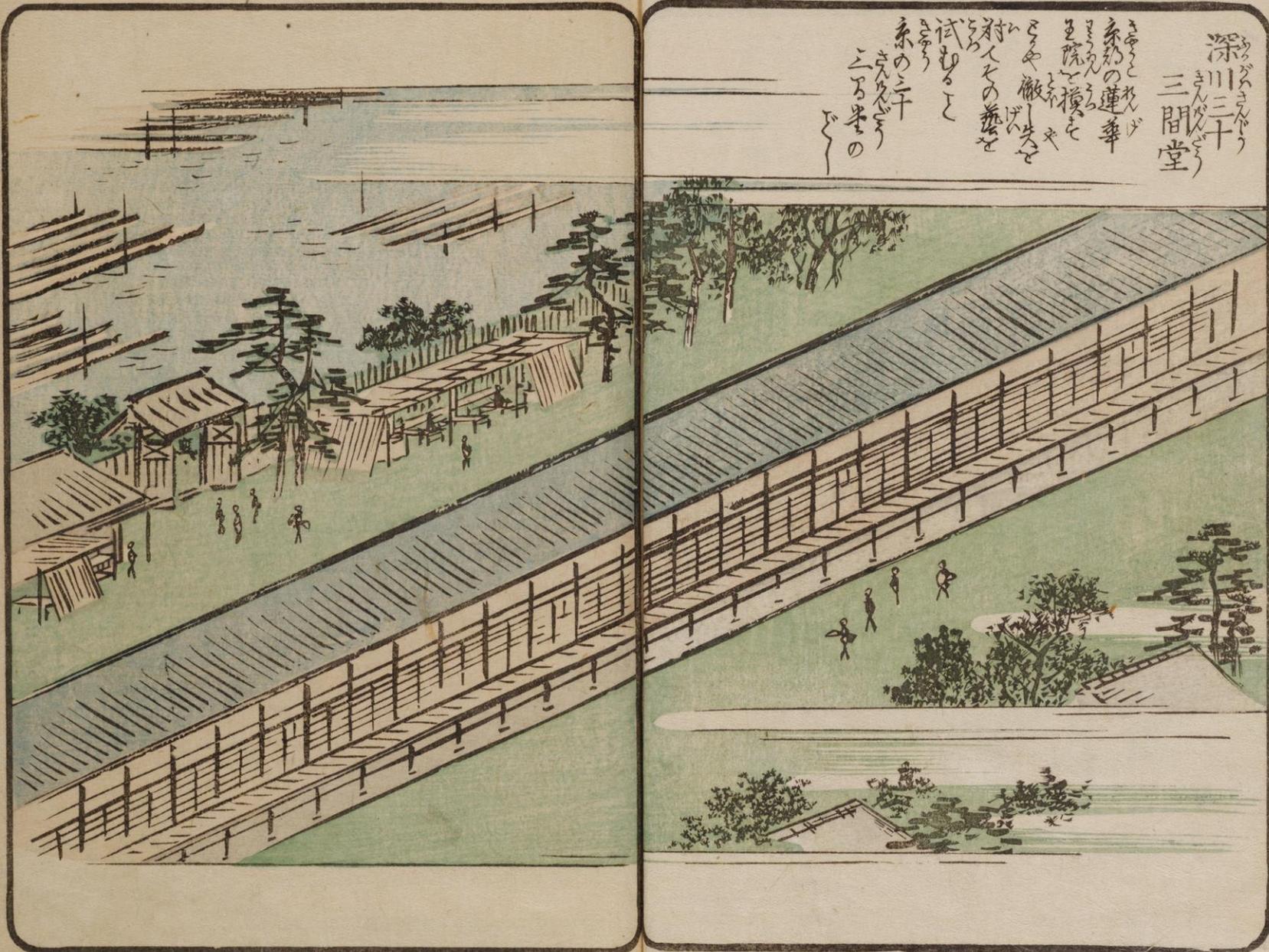
其二
同所山開

國が鬼の
 判處の園中
 赤色のついで
 常ふの足する
 奉_り山開きの
 時_きあわらて
 縦_り松板
 せむ



深川三間堂

系舟の蓮華
 三院と撰と
 といふ徹し失を
 射人との巻を
 試むると
 系舟の
 二万歩の



洲寄
辨天

光緒元年
この海濱と

行きてきて

復た院

大徳に隆光

舟二の定居と

建の表秋

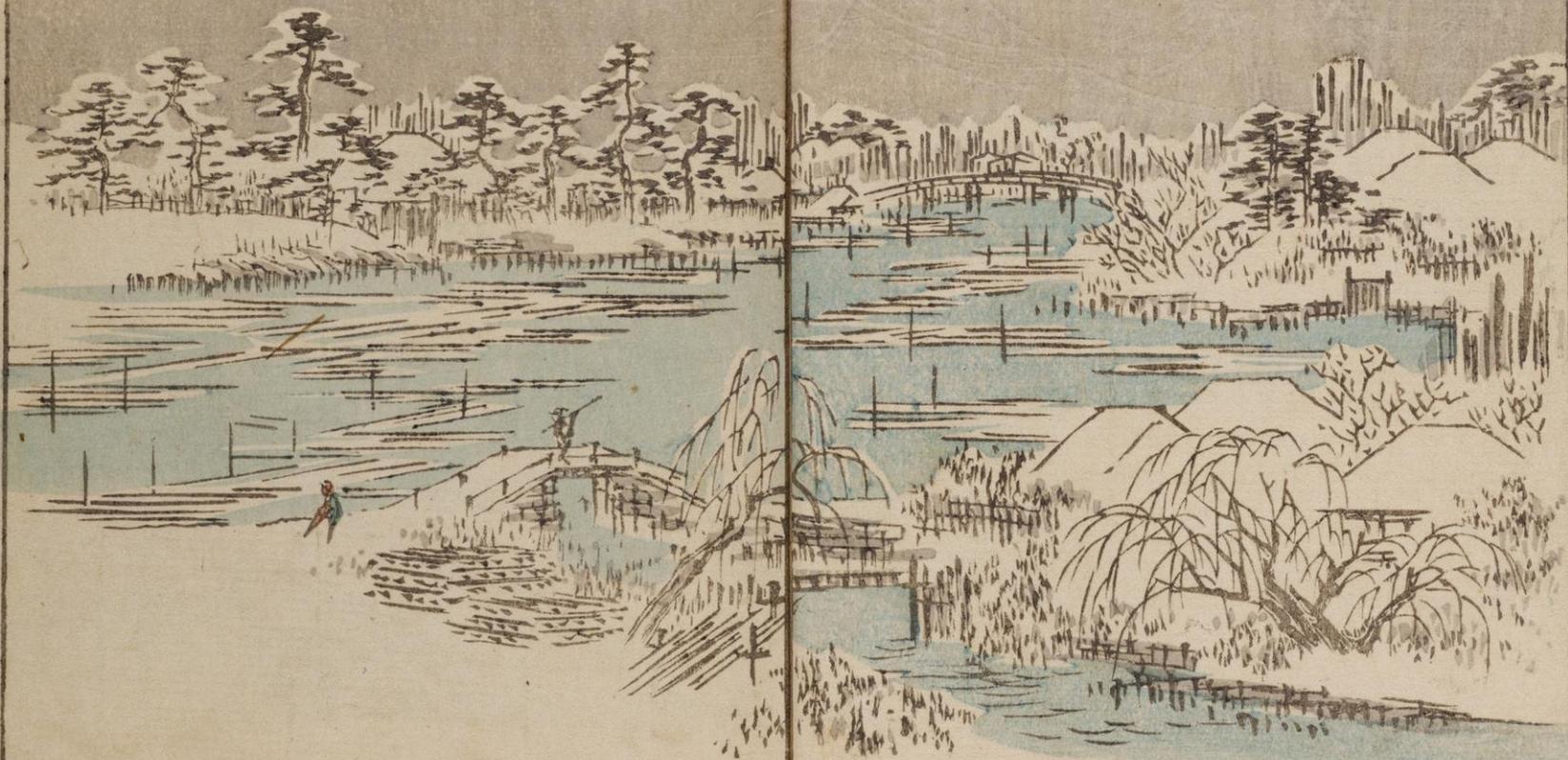
松人ら小

群集を



深川木場

このま
材木屋の
多きより
名と本場と
その中めく
山の水の
ありん流の
地と林せり



中洲三ッ俣

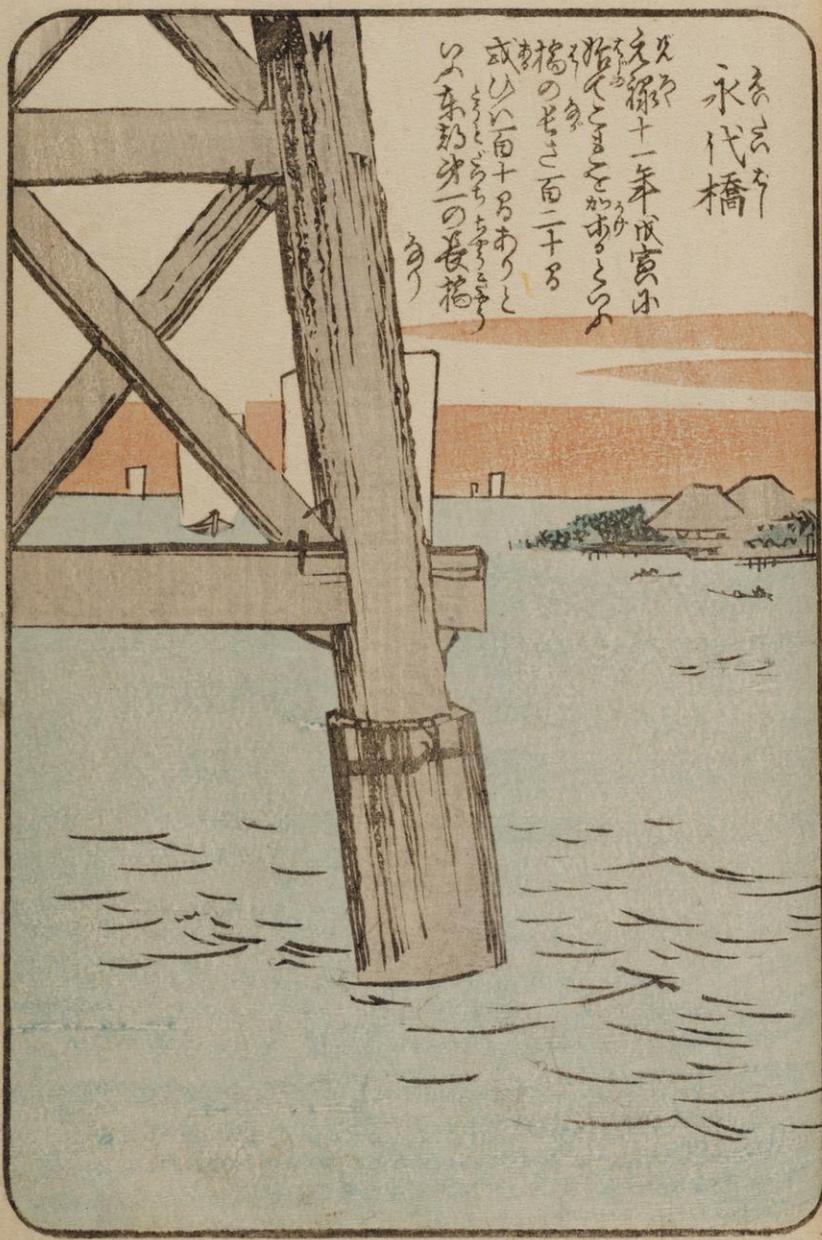
あゝあゝ
新大橋より
南の方むくとも
あやあや
茶坊あつく
その後ひ
のんうこ
あ
さう
す
あつとあま
あつとあま
あつとあま
あつとあま
あつとあま



永代橋

寛政十一年成宮小
船の長二百二十
或は八十ありと
の長橋

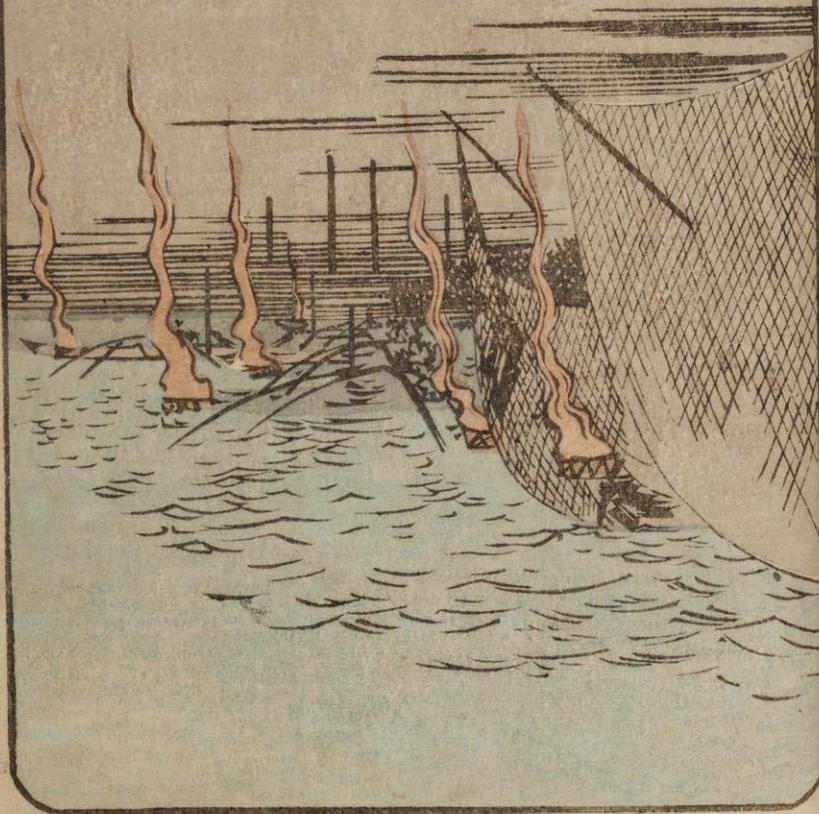
あり



佃白魚網
夜景



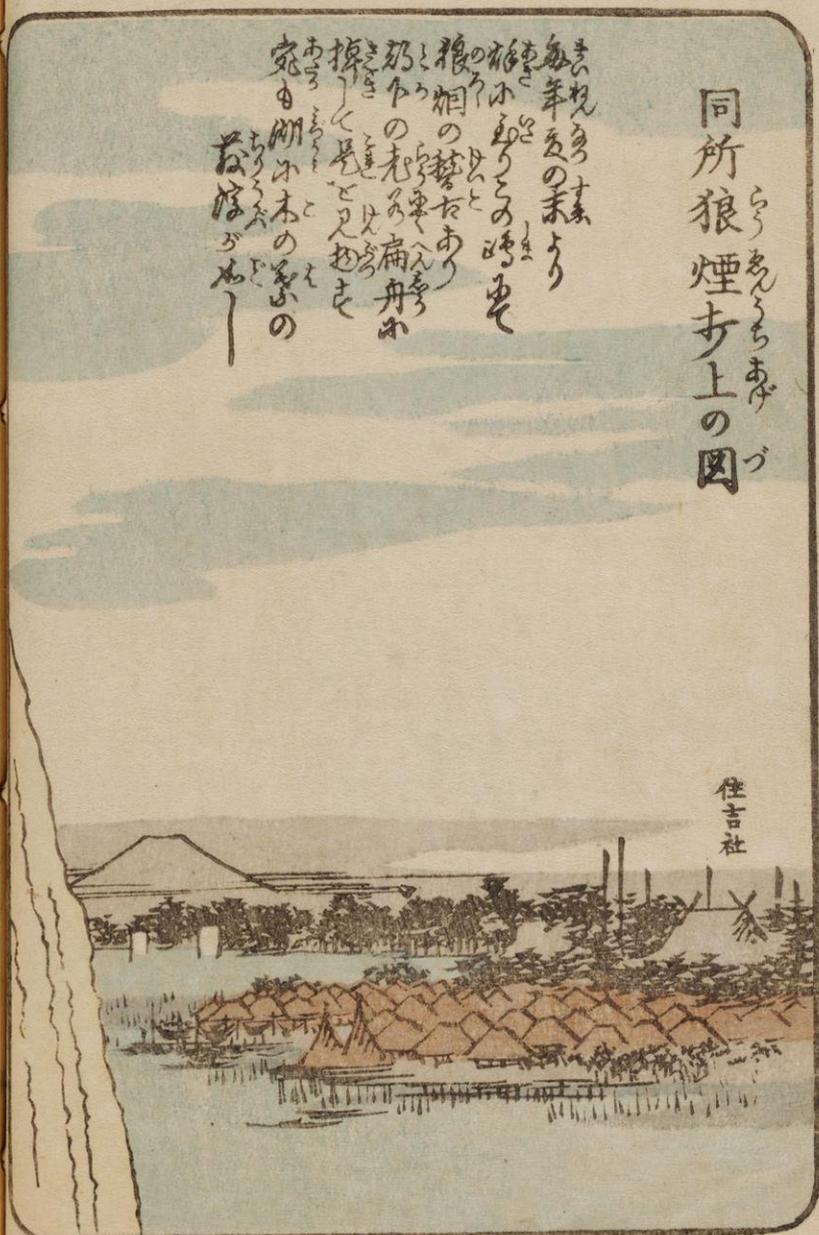
水代指の向ひと
 佃白魚網と能く
 夜の光を照らす
 舟の影を映す
 網の目を透す
 魚の群を捕す
 舟の揺れを感ず
 網の重さを覚ゆ
 夜の静けさを思ふ
 舟の静けさを思ふ
 網の静けさを思ふ
 魚の静けさを思ふ



同所狼煙抄上の図

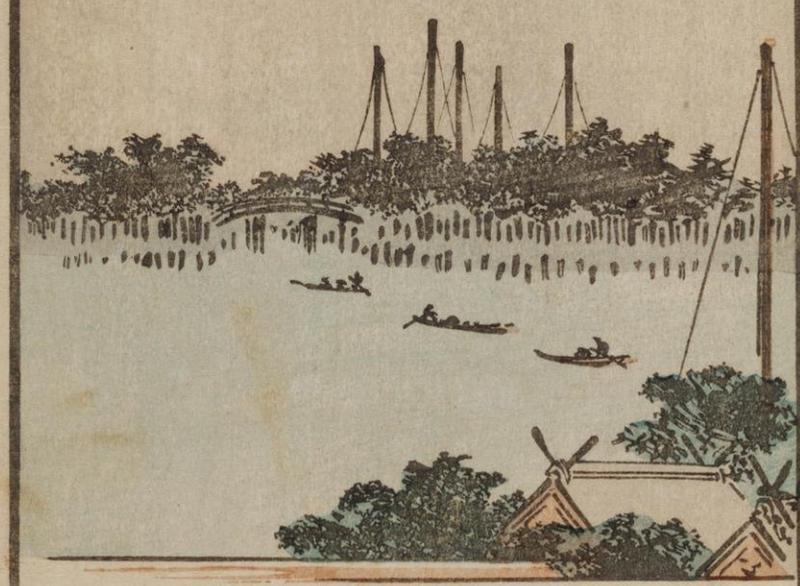
まねの末より
 毎年の末より
 狼煙の替りあり
 乃下の老なる舟舟
 掠りて見せむと
 宛も湖の木の家
 なるがゆへ

住吉社



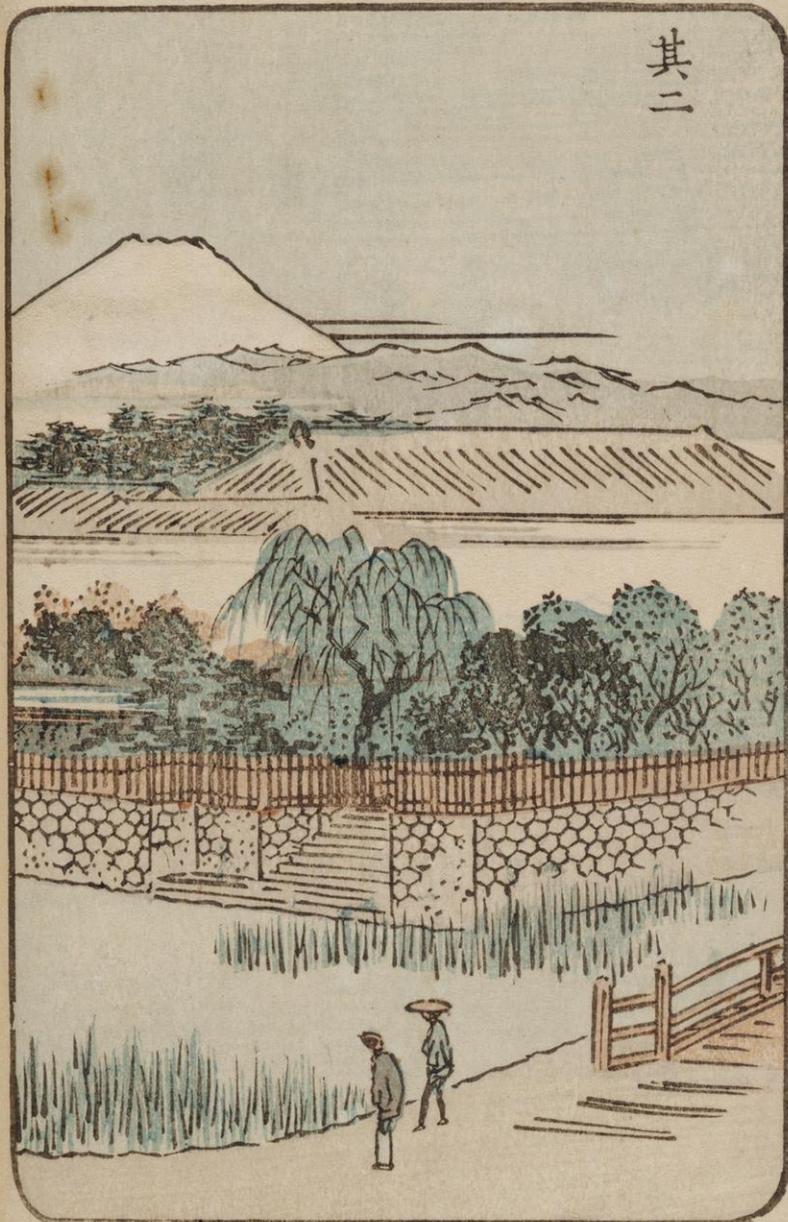
この稲花いと
 ちかくと鑑
 年歴詳あるを
 その境内に
 富士と遠く
 眺めると
 安らぎあり

鉄砲洲
 境内の不二





其二



華地河門依

是依本教也

河門依と云

關山親愛を人多り

土月廿二日壬辰八日

軍山表まて河門依と云

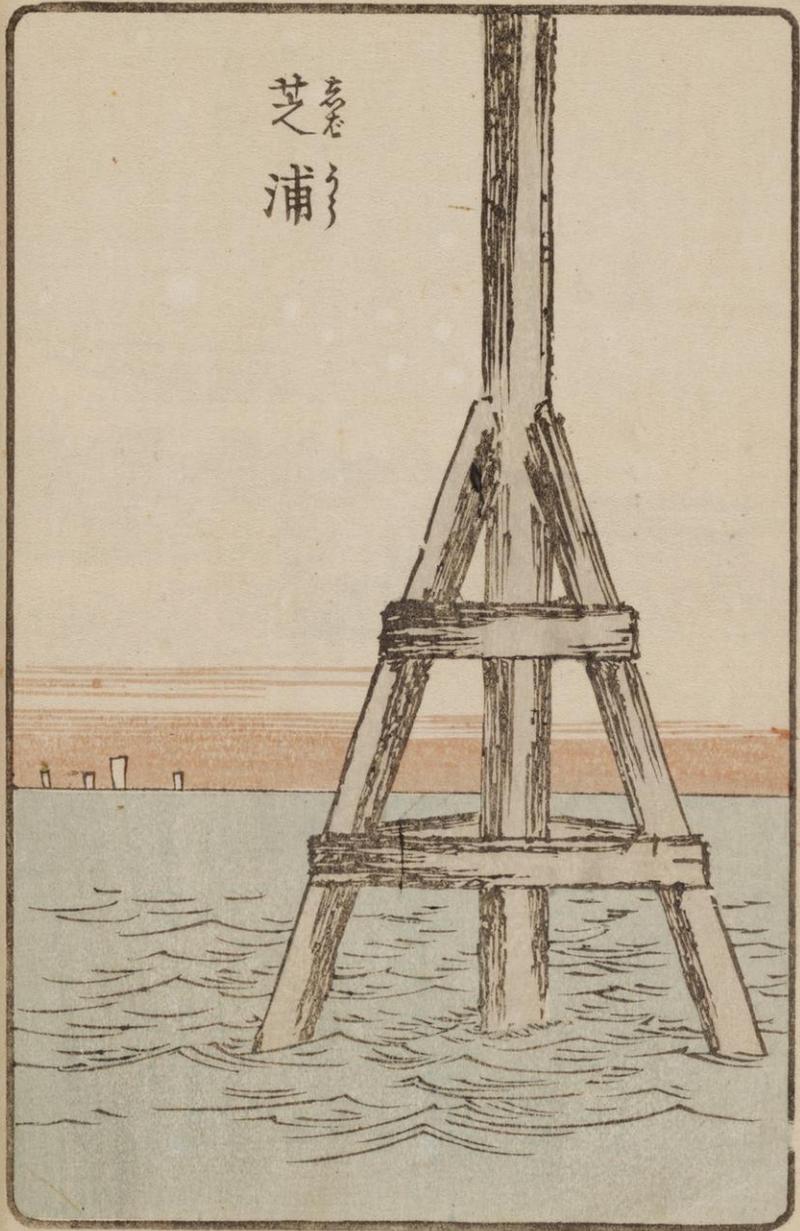
て東海群集おびと

當河門依と云

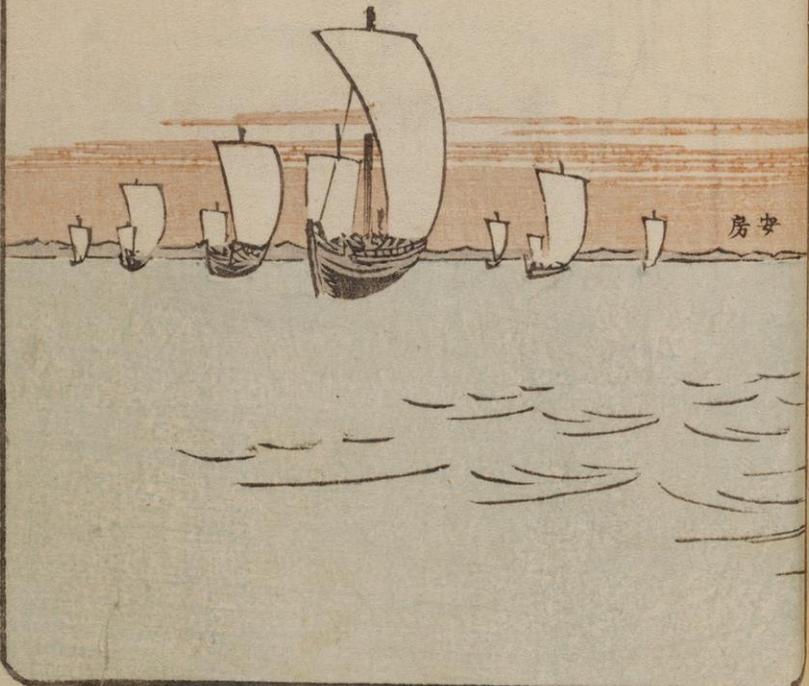
是亦舟一の河門依と云



芝浦



田圃^{いんぼ}の物^{もの}多^{おほく}り
 この所^{こゝ}より^より^こ今^{いま}と^な共^{ども}
 海^{うみ}水^{みづ}船^{ふね}と^とし^して
 安房^{あはら}上^{かみ}総^{そう}と^と申^{まを}す
 奈^な羽^は田^たの^の表^{あはら}
 白帆^{しろふね}の^のま^まな
 船^{ふね}の^のま^まな
 手^てに^に船^{ふね}の^のま^まな



其二

神明宮

増上寺



沖より陸地と

観方よなる

身の末より船小

いりつゝなる小舟

ひらき小舟だ

月毎小舟だ

徳意の入船を船

實小舟だ

死ハせり





同所
北上の夜待

まへか
 毎年七月廿六夜
 徒人この不小
 群集一ヶ月の世
 舟のあひと或ひ
 接上の酒宴多
 舟田新し
 遊新その
 渡ひり
 なる

同所
月の岬

此の石小の山
 東南の海面小
 波の眺めと
 中秋の月あり
 石の眺めと
 最牙一と
 月の岬の名も
 空一と



八ツ山



其二

けいさく
をまは
え和の
そのむう
龍耕の辰
ありふ
仲ふ
花小
左不
御物
右の
安房
かす
疎文
東

総房



深川スサキ



3513